



化学でもっといいこと

Something Better with Chemicals

ダイソー株式会社

2008年3月期決算説明会

(東証・大証第一部:4046)

2008年6月5日

DAISO



2008年3月期業績

2009年3月期見通し

前中期経営計画「ADVANCE-08」の総括

新中期経営計画「GLOBAL GROWTH-10」

研究開発への取り組み



## 2008年3月期業績

---

## 2008年3月期のポイント

過去最高の売上高・経常利益を達成

売上高782億円、経常利益45億円

営業利益率5.0% 5.7%

前中計「ADVANCE-08」を1年前倒しで達成

- ・機能化学品を中心に設備能力増強による販売数量増
- ・原料高に対応した販売価格の改定を実施
- ・コストダウン投資が寄与

機能化学品の成長戦略が奏功

- ・二桁増収増益
- ・売上高増加率が基礎化学品を上回る(構成比も増加)
- ・高水準の減価償却費を吸収し、高い利益率を維持

## 2008年3月期業績

売上高782億円 (+ 8.1%)、経常利益45億円 (+ 21.4%)

国内外の堅調な需要、基礎化学品・機能化学品を中心とした能力増強、コストダウン、製品価格是正が寄与

	07年3月期		08年3月期		前期比		08年3月期計画	
	売上高	売上比	売上高	売上比	B - A	増減率	C	B - C
(単位:百万円)	A		B		B - A	増減率	C	B - C
売上高	72,398	-	78,229	-	+5,831	+8.1%	78,000	+229
営業利益	3,610	5.0%	4,468	5.7%	+858	+23.8%	4,400	+68
経常利益	3,735	5.2%	4,532	5.8%	+797	+21.4%	4,500	+32
当期純利益	1,974	2.7%	2,489	3.2%	+515	+26.1%	2,400	+89

# セグメント別売上高

機能化学品：設備能力増強による拡販が寄与 + 14.7%

基礎化学品：国内外の堅調な需要、数量・単価とも強含み + 6.8%

(単位:百万円)	07年3月期	構成比	08年3月期	構成比	増減額	増減率
基礎化学品	38,462	53.1%	41,094	52.5%	+2,632	+6.8%
機能化学品	24,209	33.4%	27,767	35.5%	+3,558	+14.7%
住宅設備 ほか	9,726	13.4%	9,367	12.0%	359	3.7%
合計	72,398	100.0%	78,229	100.0%	+5,831	+8.1%

# 売上高増加要因(+58億円、+8.1%)

機能化学品：エピクロルヒドリンゴムなどが順調に推移

・特徴ある高機能製品の市場深耕が奏功

・海外拠点を通じた海外売上高が前年比+18%(+18億円)

基礎化学品：エピクロルヒドリンなどが好調

## 機能化学品

+36億円

エピクロルヒドリンゴム

+6

ダップ樹脂

+4

アリルエーテル

+4

ガラス

+4

医薬中間体・シリカゲル

+4

金属電極

感光性樹脂ほか

+14

## 基礎化学品

+26億円

クロール・アルカリ

+10

エピクロルヒドリン

+6

塗料原料ほか

+10

## 住宅設備ほか

-4億円

ダップ化粧板ほか

-4

## セグメント別営業利益

基礎化学品：市況堅調もあり好調続く

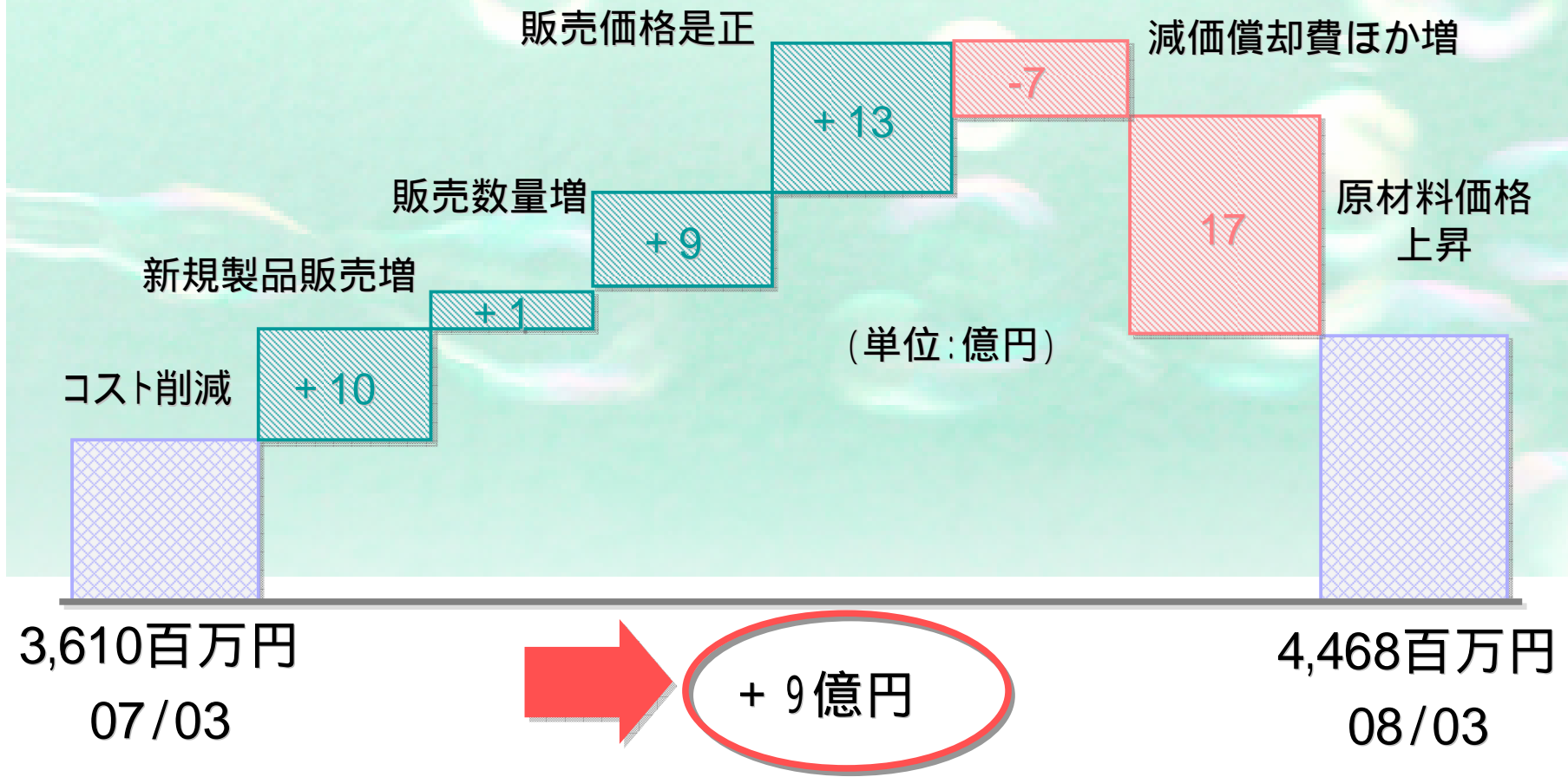
機能化学品：設備増強に伴う償却費を吸収して増益

(単位:百万円)	07年3月期	08年3月期	増減額	増減率
基礎化学品	2,237	2,803	+566	+25.3%
機能化学品	2,058	2,364	+306	+14.9%
住宅設備ほか	37	81	+44	+118.9%
小計	4,333	5,250	+917	+21.2%
配賦不能 営業費用	723	782	+59	+8.2%
合計	3,610	4,468	+858	+23.8%



# 営業利益増加要因(+9億円、+23.8%)

原材料高を価格是正と販売数量増、コストダウンで吸収





2009年3月期見通し

# 2009年3月期 事業環境

## 化学業界を取り巻く事業環境

- 原油価格の高騰による原材料価格上昇
- 国内における設備投資や個人消費の低迷
- 円高の進行による輸出産業への打撃
- 米国経済の停滞

**2009年3月期は  
厳しい事業環境に**

## 2009年3月期 業績見通し前提条件

1. 為替レート
  - (1) ドル 105円/\$
  - (2) ユーロ 155円/EUR
2. 国産ナフサ価格 70,000円/kl

機能化学品を中心とした拡販

原材料高騰に対応した価格見直し

新技術導入などによるコストダウンの推進

## 2009年3月通期見通し

売上高820億円(+4.8%)、経常利益47億円(+3.7%)

(単位:百万円)

	08年3月期		09年3月期		増減額	増減率
	実績	売上比	計画	売上比		
売上高	78,229	-	82,000	-	+3,771	+4.8%
営業利益	4,468	5.7%	4,600	5.6%	+132	+3.0%
経常利益	4,532	5.8%	4,700	5.7%	+168	+3.7%
当期 純利益	2,489	3.2%	2,500	3.0%	+11	+0.4%

## セグメント別売上高見通し

基礎化学品：原材料価格上昇に見合う価格是正を実施

機能化学品：設備投資効果により販売数量が増加

(単位:百万円)	08年3月期		09年3月期		増減額	増減率
	実績	構成比	計画	構成比		
基礎化学品	41,094	52.5%	43,100	52.5%	+2,006	+ 4.9%
機能化学品	27,767	35.5%	29,400	35.9%	+1,633	+ 5.9%
住宅設備 ほか	9,367	12.0%	9,500	11.6%	+133	+ 1.4%
合計	78,229	100.0%	82,000	100.0%	+3,771	+4.8%

## 売上高見通し要因 (+ 38億円、+ 4.8%)

「基礎化学品」「機能化学品」が通期にわたり増収を牽引

基礎化学品：原燃料アップ分の価格転嫁を実施

アリルエーテル類：引き続きシランカップリング剤用途向けが好調

ダップ樹脂：UVインキ、ホットスタンプ用途向けが好調

機能化学品		基礎化学品	
+ 16億円		+ 20億円	
アリルエーテル類	+4	クロール・アルカ	+11
ダップ樹脂	+3	エピクロルヒドリン	+9
カブラス	+3		
エピクロルヒドリンゴム	+2		
キラル医薬中間体、 シリカゲル、金属電極ほか	+4	住宅設備ほか	
		ダップ化粧板	+2

## セグメント別営業利益見通し

機能化学品：引続き増収効果により増益へ

基礎化学品：原材料価格高騰を考慮し微増益へ

(単位:百万円)	08年3月期 実績	09年3月期 計画	増減額	増減率
基礎化学品	2,803	2,850	+47	+1.7%
機能化学品	2,364	2,500	+136	+5.8%
住宅設備ほか	81	100	+19	+23.5%
小計	5,250	5,450	+200	+3.8%
配賦不能 営業費用	782	850	+68	+8.7%
合計	4,468	4,600	+132	+3.0%

# 営業利益見通し増加要因 (+ 1億円、+ 3.0%)

基礎化学品: 堅調な需要で販売価格是正を計画

機能化学品: 拡販効果による販売数量増が寄与する見通し



4,468百万円  
08/03



+ 1億円

4,600百万円  
09/03



## 設備投資額・研究開発投資の見通し

設備投資額 : 機能化学品を中心に50億円を計画

減価償却費 : 設備投資強化で前期比約2割増加

研究開発費 : キラル医薬中間体を中心に前期比8.0%増加

(単位:百万円)

	07年3月期 実績	08年3月期 実績	09年3月期 計画	増減
設備投資額	4,857	5,908	5,000	15.3%
減価償却費	2,319	3,025	3,700	+ 22.3%
研究開発費	2,009	1,666	1,800	+ 8.0%

## 安定した株主還元を実施

09年3月期：前期同様年6円を計画

	07年3月期 実績	08年3月期 予定	09年3月期 計画
通期	6円	6円	6円
中間	3円	3円	3円
期末	3円	3円	3円
配当性向	32.9%	26.3%	26.3%



前中期経営計画  
「ADVANCE - 08」の総括

---

# 前中期経営計画【ADVANCE-08】の総括

経常利益45億円を1年前倒しで達成



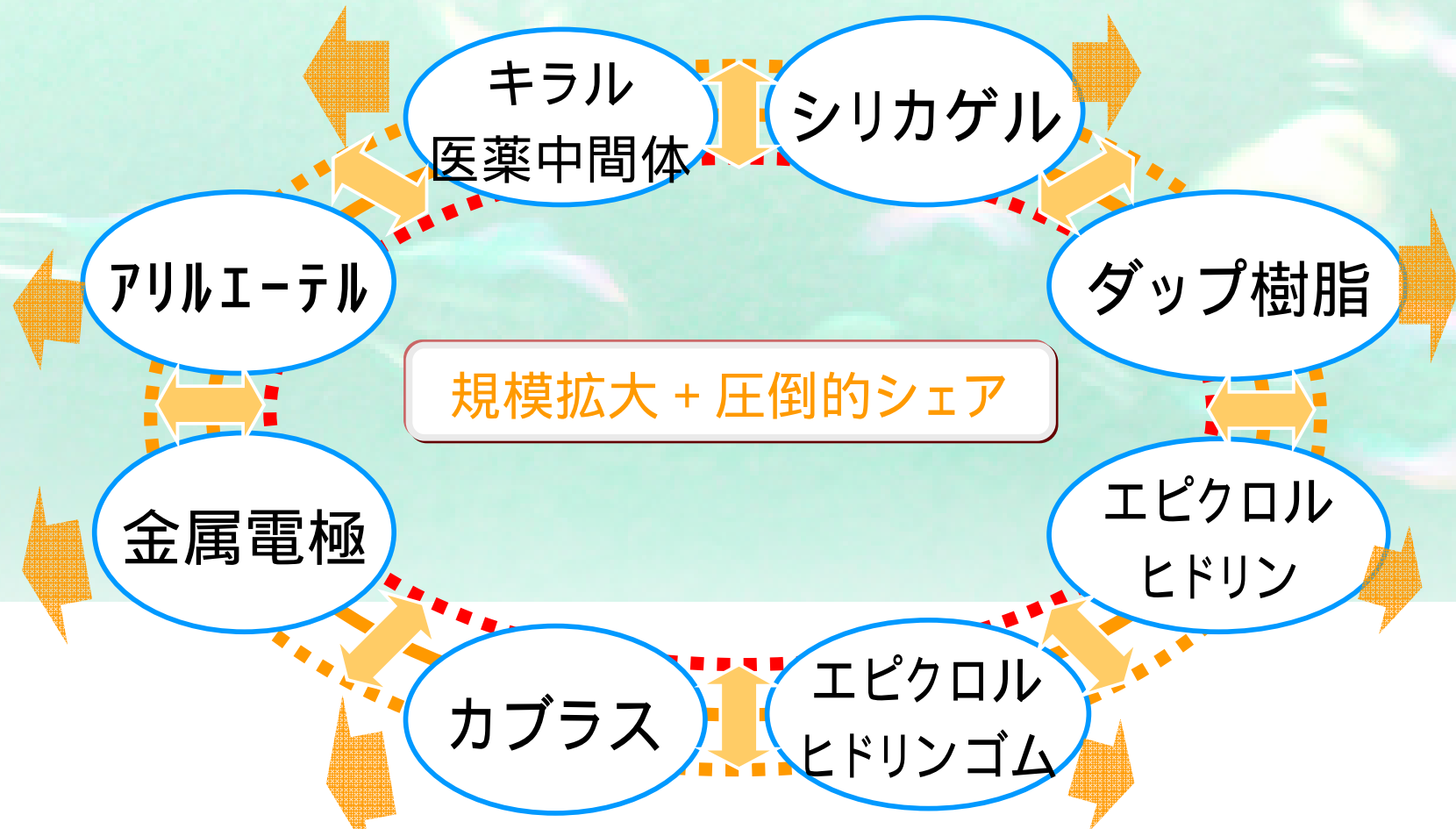
積極的な設備増強で「パワーチェーン構想」を推進  
コア事業の競争力強化、次世代コア事業の育成、低収益事業の改善

世界4極体制の構築

コスト削減が寄与

# パワーチェーン事業について

競争力を持った製品群(パワーチェーン事業)の育成強化は  
順調に進展中



# 設備投資の成果が結実

売上高の伸び > 生産能力の伸び

製品別投資の内訳 (億円)

		NEXTAGE-05 03/4 ~ 06/3	ADVANCE 08 06/4 ~ 08/3	生産能力	売上高*
コア事業	ダップ樹脂	3.1	0.6	1.7倍	1.7倍
	エピクロルヒドリンゴム	0.8	1.1	1.1倍	1.5倍
	エピクロルヒドリン	2.2	18.3	1.1倍	2.1倍
	クロール・アルカリ	-	-	1.1倍	1.3倍
次世代 コア事業	アリルエーテル類	3.3	4.6	2.1倍	2.1倍
	キラル医薬中間体	3.7	15.4	3.0倍	1.4倍
	シリカゲル	-	8.4	2.0倍	1.3倍
	カブラス	-	0.4	1.1倍	2.4倍
コストダウン		11.9	18.0		
その他(既存設備維持更新等)		53.0	41.2		
合計		78.0	108.0		

\* 04年3月期実績 vs 08年3月期実績

# 世界4極体制を構築・海外展開の基盤が確立

ドイツ現地法人化(08年1月)で欧州事業展開を強化

4極体制  
今後の展開

ダイソーケミカル(株)現地法人

米国売上高

14億円 18億円(+29%)

欧州売上高

29億円 40億円(+38%)

アジア売上高

51億円 66億円(+29%)

デュッセルドルフ事務所  
(1990年10月)

DAISO Fine Chem GmbH  
(2008年1月)



上海事務所  
(2006年4月)

ダイソーケミカル(株)  
上海現地法人  
(2005年10月)



ダイソーケミカル(株)  
台湾現地法人  
(2006年3月)



アメリカ事務所(ニュージャージー)  
(2005年12月)

DAISO Fine Chem USA, Inc.  
(サンノゼ)  
(2006年4月)



海外売上高

96億円 124億円(+29%)

(06年3月期 08年3月期実績)

# 償却前営業利益率：機能化学品 > 基礎化学品

## 機能化学品

(単位:百万円)

戦略的注力分野 市況に左右されない高い利益率  
高水準の減価償却費負担をこなし増収・増益基調

	03年3月期	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期計画
売上高	19,533	19,854	21,525	22,369	24,209	27,767 (+14.7%)	29,400
営業利益	2,098	1,968	2,117	2,200	2,058	2,364	2,500
減価償却費	806	963	888	919	1,009	1,311	1,600
償却前営業利益	2,904	2,931	3,005	3,119	3,067	3,675	4,100
償却前営業利益率 ( ÷ 売上高) (%)	14.87	14.76	13.96	13.94	12.67	13.24	13.95

## 基礎化学品

(単位:百万円)

安定的収益基盤  
需要増と価格上昇の影響もあり増収増益を継続中

	03年3月期	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期計画
売上高	26,525	27,517	30,508	34,168	38,462	41,094 (+6.8%)	43,100
営業利益	349	90	427	1,577	2,237	2,803	2,850
減価償却費	1,160	946	915	882	977	1,213	1,600
償却前営業利益	811	856	1,342	2,459	3,214	4,016	4,450
償却前営業利益率 ( ÷ 売上高) (%)	3.06	3.11	4.40	7.20	8.36	9.77	10.32





## 新中期経営計画

GLOBAL GROWTH-10

(GG-10)

---

# 新中計「GLOBAL GROWTH-10」(08～10年度)

パワーチェーン事業を一段と強化

基本戦略

1. 基盤事業の強化
2. 成長戦略事業の推進
3. 新事業の創出
4. 海外展開の拡充
5. コストダウンの推進



2010年度 業績目標

売上高 1000億円  
経常利益 60億円  
ROA 7.0%以上

挑戦・革新・飛躍

## 機能化学品を強化し中計達成へ

### 売上高

(単位: 億円)

	2008/3 実績	2011/3 計画	2011/3- 2008/3
基礎化学品	411	500	+89
機能化学品	278	400	+122
住設その他	93	100	+7
合計	782	1,000	+218

### 営業利益

	2008/3 実績	2011/3 計画	2011/3- 2008/3
基礎化学品	28	34	+6
機能化学品	24	32	+8
住設その他	1	2	+1
(配布不能費用)	(-8)	(-8)	
合計	45	60	+15

## 各セグメントの事業戦略 ~ 機能化学品

製品	市場環境	当社の取り組み
エピクロルヒドリンゴム	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界的な自動車生産台数は今後も年率3%前後の成長で安定的に推移</li> <li>新興国の自動車生産台数は年率10%前後の成長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備能力増強による供給拡大</li> <li>海外展開に注力</li> <li>OA用途も拡販</li> </ul>
アリルエーテル類	<ul style="list-style-type: none"> <li>エポキシ系シランカップリング剤用途は欧米で安定的</li> <li>中国などの新興国市場の需要が拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備能力増強による供給拡大</li> <li>海外展開に注力</li> </ul>
ダップ樹脂	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア市場でのUVインキ、ホットスタンプ用途向け需要は好調</li> <li>欧米での普及率は低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備増強による供給拡大</li> <li>アジアでの拡販を強化</li> <li>欧米への拡販に注力</li> </ul>

## 各セグメントの事業戦略 ~ 基礎化学品

製品	市場環境	当社の取り組み
エピクロルヒドリン	<ul style="list-style-type: none"><li>• 国内市場は安定成長</li><li>• アジアでは、10%以上の成長</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 販売規模の安定的な拡大を目指す</li></ul>
クロール・アルカリ	<ul style="list-style-type: none"><li>• 国内市場は、塩ビの競争力低下により生産が縮小</li><li>• 需給バランスがタイト化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• エピクロルヒドリンなどの成長性のある塩素需要により規模を安定的に拡大</li></ul>

# 2015年の創立100周年に向けて

長期経営目標【ターゲット100】：2015年度経常利益100億円

コア事業の一段の競争力強化  
グローバル展開の加速

創立100周年  
(2015年)

ターゲット 100

経常利益100億円

(08～10年度)

GLOBAL GROWTH-10

売上高1,000億円  
経常利益60億円  
ROA 7.0%以上

(06～07年度)  
ADVANCE-08

事業領域の拡大

(03～05年度)  
NEXTAGE-05

企業体質の強化

現在

パワーチェーン事業の推進  
新事業の創出  
海外展開の拡充



## 研究開発への取組み

---

# 研究開発の基本方針と現状

「市場性ある製品」を5つのテーマで開発中

エピクロルヒドリンの新製法開発

新規不斉合成触媒の開発

電着塗装用電極の開発

ソーダ電解用電極の開発

有機合成

- キラル医薬中間体
- 硫黄系シランカップリング剤

ナノハイブリッド微粒子の開発

バイオファーマ分野への展開

無機合成

- 高速液体クロマトグラフ用シリカゲル

電解

- めっき用電極システム

コア技術

重合

- ポリエーテル系ポリマーダップ樹脂

バイオ

- キラル医薬中間体
- 機能性食品素材

環境対応技術の開発

バイオプラスチック向け改質剤開発

電子分野への展開

新規重合触媒の開発



# バイオベースポリマー(ポリ乳酸)の改質剤開発

ポリ乳酸の耐熱性・加工性を飛躍的に向上させる改質剤  
安価なバイオマス原料を用いて低コストに製造する技術を開発。  
(発酵技術は大阪市立工業研究所との共同開発)

- ・ポリ乳酸の欠点である耐熱性・加工性を大幅改善可能
- ・改質剤との複合化により耐熱性～PBT樹脂 透明性～PET樹脂
- ・当面は自動車内装材などがターゲット
- ・コスト低減すれば光学材料や電子部品など汎用石油系樹脂の代替へ
- ・5月よりサンプルワーク開始(繊維・フィルムメーカー)
- ・2010年に1,000トンの商業生産を目指す
- ・樹脂加工メーカーとの協業

バイオプラスチック改質剤

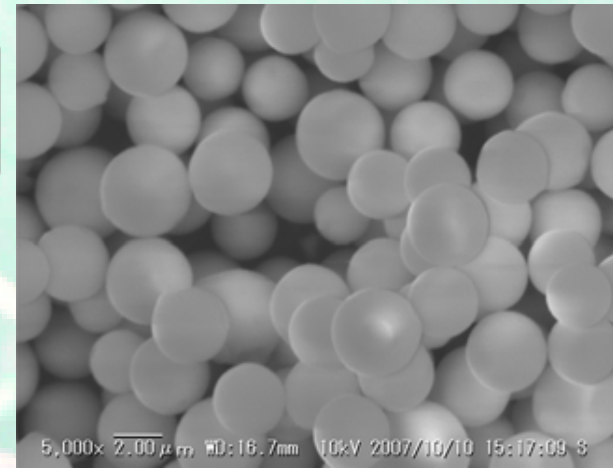
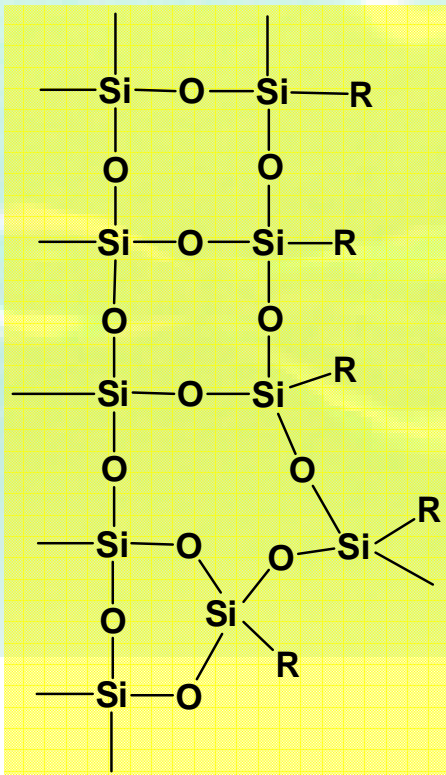


発酵培養



# 液体クロマトグラフィー用充填剤の開発

高分離能充填剤の開発  
高耐薬品性充填剤の開発 (MPシリーズ)



修飾型シリカゲル製造プラント新設 (2008年 / 尼崎工場)



## (参考) 会社概要

---

# 創業以来、一貫して研究開発型の化学会社を志向

- わが国初の「食塩電解法かせいソーダ製造会社」
- 「基礎原料から製品までの一貫生産」を実現
- 「トップシェア」の製品を次々に開発

## 成 果 (例)



ダップ樹脂



エピクロルヒドリン エピクロルヒドリンゴム



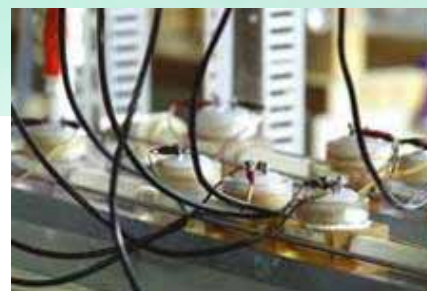
医薬中間体



アリルエーテル



液体クロマトグラフィー用シリカゲル



金属電極



カブラス

# 生産・開発体制：西日本を中心に6工場・1研究所

## <主力製品>

医薬中間体、ダップ樹脂、  
アリルエーテル、かせいソーダ、  
液体塩素、かせいカリ

【松山】



【水島】



## <主力製品>

アリルクロライド、  
エピクロルヒドリン、  
エピクロルヒドリンゴム

## 研究所：尼崎

【尼崎】



【小倉】



## <主力製品>

金属電極、シリカゲル  
カプラス、かせいソーダ、  
液体塩素、水素ガス

【静岡】



<主力製品>  
ダップ化粧板、  
ダップシート

【岡山化成】  
(関係会社)

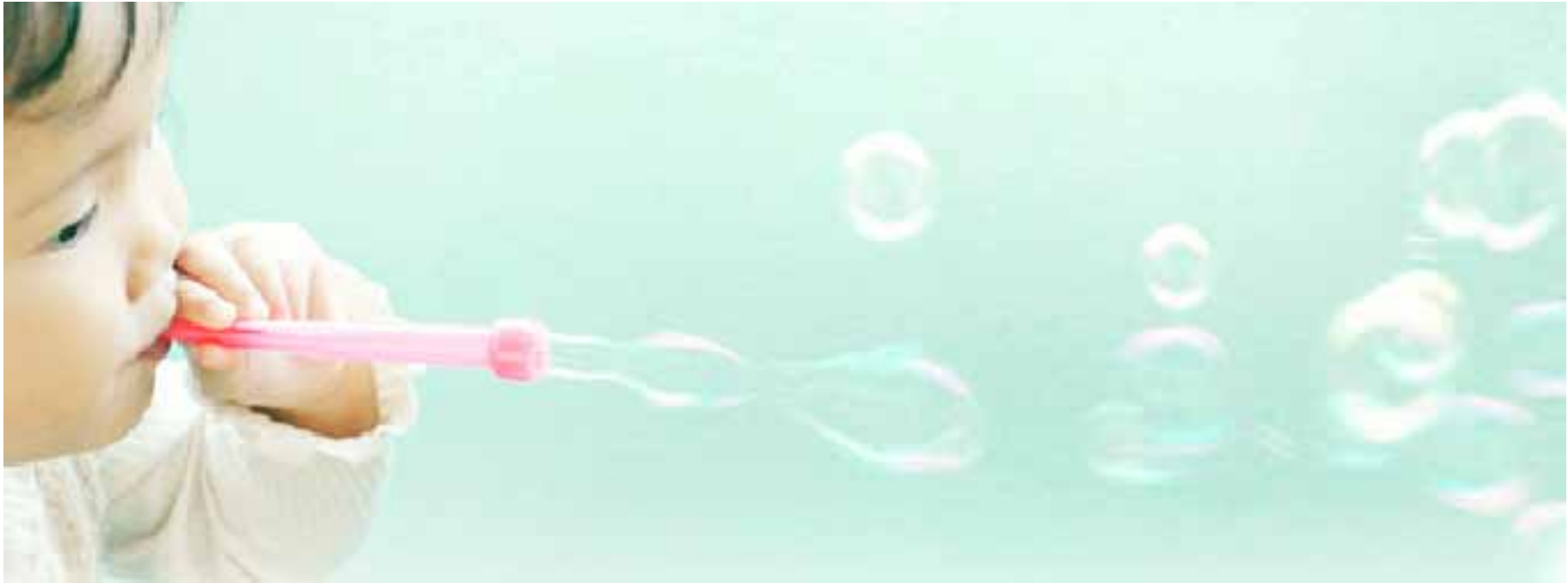


<主力製品>  
かせいソーダ、  
塩素ガス、水素ガス

## <主力製品>

かせいソーダ、塩酸、  
次亜塩素酸ソーダ

\* 08年5月末現在



- 本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

2008年6月5日

DAISO